

承認組合（※）による農業法人への出資事例

【承認組合の概要】

組 合 名 称	北洋農業応援ファンド投資事業有限責任組合	
運 営 主 体	株式会社北海道二十一世紀総合研究所	
組 合 員	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社北洋銀行 ・株式会社北海道二十一世紀総合研究所 ・株式会社日本政策金融公庫 	
組 合 規 模	5億円	
投 資 対 象 の 範 囲	北海道内の農業法人	
上 記 組 合 に 関 する 問 い 合 せ 先	担当部署	株式会社北海道二十一世紀総合研究所
	連 絡 先	T E L : 011-231-3053

※「承認組合」とは、農業法人投資育成事業に関する計画について農林水産大臣の承認を受け、農業法人の株式等の取得及び投資先農業法人に対して経営又は技術の指導を行う投資事業有限責任組合のことです。

【出資概要】

事 例 1	出 資 先 名	有限会社十勝しんむら牧場
	所 在 地	北海道河東郡上士幌町
	事 業 内 容	酪農及び乳製品製造・販売、カフェレストラン、直売店の運営
	出 資 額	5百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	放牧酪農のほか、販路拡大や加工品開発にも積極的に取り組む企業であること、放牧酪農のノウハウを新たに展開する養豚事業に活用し、「放牧豚」として今後ブランド化が期待できることから、新規養豚事業の設備資金に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	設備資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 27 (2015) 年 5 月

事例 2	出 資 先 名	株式会社谷口農場
	所 在 地	北海道旭川市東旭川町
	事 業 内 容	米・トマト等農産物生産及び加工品製造、直売店の運営
	出 資 額	10 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	高品質な農産物生産に加え、加工品開発・直売店運営等にも積極的に取り組む企業であり、道内外への販路拡大に前向きに取り組む、道産農産物・加工品の更なる魅力向上に寄与することが見込まれることから、農業及び加工品製造事業資金に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	運転資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 27 (2015) 年 7 月

事例 3	出 資 先 名	有限会社グリーンテーブル
	所 在 地	北海道三笠市
	事 業 内 容	ワイン用ブドウの栽培、ワイン醸造
	出 資 額	7.2 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	当社は、『TAKIZAWA WINERY』として、農薬や化学肥料等を極力使用しないワイン用ブドウの栽培や自然環境を活かした野生酵母による特色のあるワインを醸造し、ワイン用ブドウの産地である空知エリアにおいて、他のワイナリーと連携したワインツーリズム等に積極的に取り組んでいる。今後、ワインを通じた食と観光による地域活性化が見込まれることから、ワイン醸造設備及び運転資金に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	設備資金及び運転資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 27 (2015) 年 10 月

事例 4	出 資 先 名	株式会社てみるファーム
	所 在 地	北海道石狩市
	事 業 内 容	漢方生薬茯苓菌床製造・栽培・加工・販売
	出 資 額	20.9 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	当社は、地域資源を活用した漢方生薬である茯苓（ぶくりょう）の菌床による栽培や障がい者等の雇用確保に取り組んでおり、今後、茯苓の菌床栽培による実生産規模での取組が、地域における新産業創出に資することが期待されることから、菌床製造施設整備に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	設備資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 28 (2016) 年 10 月

事例 5	出 資 先 名	ダイヤモンド十勝株式会社
	所 在 地	北海道芽室町
	事 業 内 容	西洋わさび等農産物生産・集荷・選別・販売
	出 資 額	50 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	当社は、契約農家が生産する西洋わさびや馬鈴薯などの農産物を集荷・販売する事業に取り組んでいる。今後、高品質な西洋わさびの安定的な生産・販売体制を構築することで、地域における産地化が図られ、農業所得向上への寄与が期待されることから、西洋わさび生産・選別設備導入に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	設備資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 29 (2017) 年 3 月

事例 6	出 資 先 名	有限会社渡辺農場
	所 在 地	北海道三笠市
	事 業 内 容	玉ねぎ・小麦・大豆の生産
	出 資 額	21 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	当社が GLOBALG. A. P の認証を取得し農産物の品質・付加価値の向上や更なる販路拡大を目指すことにより、地域での GAP 認証取得の機運醸成も期待されることから、認証取得に必要な圃場等整備資金に対して出資。
	出 資 金 の 使 途	運転資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 30 (2018) 年 1 月

事例 7	出 資 先 名	有限会社藤井牧場
	所 在 地	北海道富良野市
	事 業 内 容	生乳の生産、乳製品製造販売
	出 資 額	10.2 百万円
	出 資 の 経 緯 (目 的)	当社は JGAP の認証を取得し、東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給を目指している。また、地域の GAP 認証取得の機運醸成も期待されることから、その準備資金として出資。
	出 資 金 の 使 途	運転資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	平成 30 (2018) 年 3 月

事例 8	出 資 先 名	株式会社積丹スピリット
	所 在 地	北海道積丹町
	事 業 内 容	ボタニカル（香草植物）栽培及びスピリッツ蒸留事業
	出 資 額	30 百万円
	出 資 の 経 緯 （ 目 的 ）	<p>当社は、ボタニカル栽培と積丹町の植生を活かしたジン等のスピリッツ蒸留を行う事業を展開するため、令和2（2020）年6月の商品販売開始を目指し、ボタニカル生産からジン等の生産、販売までの一貫体制を整備する。</p> <p>本事業は、休耕地を活用したボタニカル栽培による地域農業への寄与、新産業創出による地域の活性化が期待されることから、運転資金及び必要設備の導入資金に対して出資。</p>
	出 資 金 の 使 途	運転資金及び設備資金
	出 資 形 態	無議決権株式引受
	契 約 時 期	令和元（2019）年8月